

天竜寺方丈庭園からの嵐山の眺望と嵯峨野景域に関する研究

京都大学大学院 学生会員 ○水谷壮志
京都大学大学院 正会員 川崎雅史

京都大学大学院 正会員 出村嘉史
京都大学大学院 正会員 樋口忠彦

1. 本研究の目的

京都には古くより、外部の眺望を取り入れ、鑑賞の対象としていた庭園が多く存在していた。そのような庭園からの風景は、周囲の地域における風景のシンボルとなっていたのではないかと考えられる。本研究では、庭園から眺める風景が周囲の景域形成に与える影響を検証するために、京都・嵯峨野地域を対象として、この地域の広がり、天竜寺庭園における嵐山の眺望（図1）との関係を明らかにすることを目的とする。



図1 天竜寺方丈庭園からの嵐山



図2 嵯峨野周辺図

（『京都市の地名』に基づき筆者作成）



図3 「天竜寺方丈林泉」

（『都林泉名勝図会』より）

2. 対象とする地域と視点場

対象地域である嵯峨野は京都の北西部に位置し、『京都市の地名』によると「東は太秦、西は小倉山、北は上嵯峨の山麓、南は大堰川（桂川）を境とする平坦な野」と説明され、一般に捉えられていることが分かる¹⁾。周囲は北東部から北部、南西部に至るまでを山々に囲まれている（図2）。

よって、この地域一帯は周囲に取り巻く山の眺望に優れており、その眺望景観によってひとつの景域を成しているのではないかと考えられる。

この対象地における山の眺望のひとつに、天竜寺方丈庭園からの嵐山の眺望が挙げられる。天竜寺は嵯峨野嵐山地域の西端に位置し、庭園前方には亀山、保津川を挟み嵐山を間近に望み見ることができる。この風景は天竜寺創建前から特別視されており、鑑賞のため嵐山に桜を植樹するなど、風景に対して数々の付加価値が与えられた（図3）。

3. 研究手法

以上を踏まえて、嵯峨野を代表する風景である天竜寺方丈庭園からの嵐山の眺望は、庭園周辺に広がる嵯峨野地域の範囲との関わりを検証する。

(1) 可視領域の把握

庭園において特定された山の風景を眺めることのできる範囲を明らかにするためには、まず、「特定された山の風景」というものは、具体的に山のどの地域を見ているのかということを確認する必要がある。そこで、これを把握する手法として、GISを用い、

KEYWORDS:眺望, 景域, 可視領域, 見られ頻度

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 TEL&FAX 075-753-5123

庭園からの眺望可能な範囲を、可視領域表示を用いて検証することにする。これには2m間隔で正確に計測されたデジタル標高データ上に、特定の視点の位置・高さデータを入力して行うものとする。この可視領域のうち、眺望対象とされている嵐山に該当する領域を「眺望対象域」とし、その分布を検証する。

（２）「見られ頻度」による範囲の特定

この「眺望対象域」を用いて、庭園からの風景を同じように眺めることのできる視点が、周囲にどの程度広がっているのかを把握する。これには、「見られ頻度」の概念を用いる（図4）。本研究では、先に得られた「眺望対象域」の上に等間隔に点をプロットし、これらの点の可視領域を重ねて表示させ、その重なりが高い地域ほど、風景として嵐山をより認識しやすい地域であると考えられるものである。この「見られ頻度」の高い地域が、景域としての嵯峨野嵐山地域と重なるのかどうかを検証する。「見られ頻度」が高くても、視点が遠方にあると嵐山の形姿が認識不可能となる限界範囲については、GISによる三次元透視図を用いて把握する。

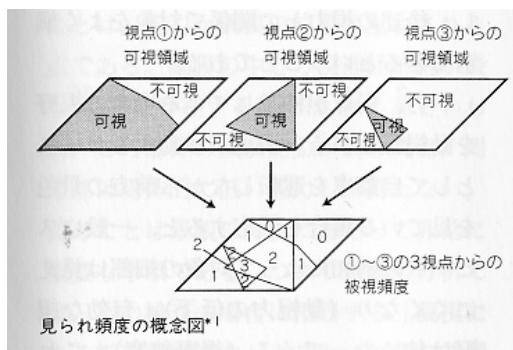


図4 「見られ頻度」の概念図²⁾
（『景観用語事典』より抜粋）

5. 検証および考察

前章で述べた研究手法に基づいて、天竜寺庭園からの嵐山の眺望を検証し、考察を行う。

まず（１）で述べた方法で可視領域を表示させる。この際、特定の視点として方丈縁側部からの眺望を適用した（図1の眺望）。その結果、天竜寺方丈庭園から眺められる嵐山の「眺望対象域」は、嵐山の尾根筋を縁とした山腹全体であることが分かった（図5）。また、嵐山の可視領域内で最も標高の高い地点が三角点付近にあり、山頂と実際のピークがほぼ重

なっていることが分かった。このことから、天竜寺では、嵐山の全体を正面から眺めていると言える。

続いて、（２）で述べた方法で、天竜寺方丈庭園と同等の眺望が得られる範囲を抽出した結果、図6のようになった。色の濃い範囲が「見られ頻度」の高い範囲である。また、嵐山の形姿を認識できる限界範囲は図中央部の丘陵部（双ヶ丘）の手前までとなっていた。この図より、天竜寺庭園からの嵐山の眺望と同じような眺望が得られる地域が、嵯峨野嵐山地域一帯に限定されていることが分かる。これは、嵐山の山腹を正面から見ることのできる視点位置が、周囲の山によって制限されていることによるものと考えられる。

以上の検証結果から、天竜寺方丈庭園からの嵐山の眺望は嵯峨野地域特有のものであり、その特有の眺望によって嵯峨野の景域が形成されていることが推察される。

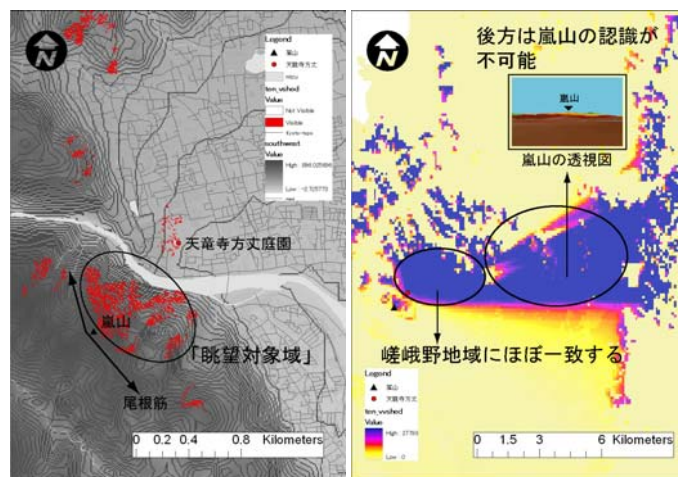


図5 可視領域

図6 「見られ頻度」

7. 結論

天竜寺方丈庭園から眺められる嵐山の風景は、嵯峨野嵐山地域の範囲内においてのみ認識が可能であることが分かった。これによって、嵐山の眺望景観は嵯峨野嵐山地域の景域形成の重要な要素であることを裏付けることができた。

参考文献

- 1) 『京都市の地名』1979
- 2) 篠原修編・景観デザイン研究会著『景観用語事典』1998